



Y's Men International

Japan East Region 2021-2022 理事通信

主題 “Think for the next generation.” 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
スローガン “We are stronger together than we are alone.” 「絆を深める時」

理事メッセージ

2021年-2022年東日本区理事
大久保知宏（宇都宮）



国際協会では9月1日から12月9日までの100日間を会員増強集中キャンペーンとして、今年の1月の時点と比較して25%の会員増加をゴールとしています。東日本区では200名以上の増加を目指すことになるわけですが、一步一步着実に進むことを考え、このキャンペーン期間に各クラブ1名の増員を目指していただければと考えています。私たちはChange!2022を推進して2022年12月に東日本区のスタート時の会員1246名に戻ることを目指して活動しています。9月末現在で817名となっていて、まだまだゴールは先にあります。諦めずに活動を続けていきたいと考えています。会員増強の施策として、9月~11月に毎月開催のY's Night Forumを開始いたしました。9月19日の第1回では11名の入会候補者を含む76名の参加があり、10月24日、11月14日の計3回のForumをうまく活用して、新規入会の可能性を探っていただければと考えています。



また、11月1日の開始を目指して、Be Healthy! Programの準備を始めました。このプログラムは、11月1日~11月30日の1か月間の累積の歩数を競うものです。健康維持のために、ウォーキングやジョギングを励行されている方も多いと思います。場所は離れていても、同時期に同じ思いを持って仲間と活動することで、絆を深められればと考えています。期間中は画像投稿サイトを用意して、活動中の皆さんの様子や、皆さんが感じた風景・物などを共有する仕組みを作ります。歩数については、特別なアプリを使わずに、完全に自己申告といたします。携帯・スマホ・万歩計などを持ち歩いて歩数をご報告ください。エントリーフィーを2000円ほどいただきますが、システム使用費、参加賞などの必要経費を除いた収益金はTOF献金として国際貢献に充てたいと考えています。このプログラムは皆さんの健康維持に加えて、皆さんの周辺の方を巻き込む力のあるプログラムだと考えています。クラブ理解の入り口としてご活用ください。



強調月間「2022年に向けて」

2018-2020 アジア太平洋地域会長、国際議員
東日本区行政監事
田中博之(東京多摩みなみ)

99年前の1922年11月15-17日に米国・ニュー



ジャージー州・アトランティックシティで開催された世界YMCA大会の折に、大会に参加したアメリカ、カナダの13のワイズメンズクラブの代表者66名によって、第1回国

際大会が開催され、ワイズメンズクラブ国際協会

(以下、国際協会)の設立、国際憲法が決定され、11月22日に、当時の全てのクラブ(17クラブ)の批准によって、国際協会がスタートしました。以来、現在では世界73か国に1,400クラブ、24,000名の会員を擁する組織に発展した国際協会ですが、2022年に創立100周年を迎えるに当たって、国際協会では、私たちの組織がより発展し、強固なものとなるために、2008年に「ビジョン2022」(Vision 2022)を定め、2022年には、こういう組織となっているという、全世界のクラブ、会員が共通して目指す姿を示しました。

【ビジョン2022】

「私たちが生きる世界をより良くするために、「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」をモットーに掲げながら、積極的な奉仕とYMCA、国際連合、その他の相応しい組織との緊密な協力関係に務め、人としての価値を高めることに努力する強力で献身的なメンバーによって、若者の成長に特に焦点を置きつつ、社会に認められ、常にグローバルな視点を持って活動する自発的奉仕組織となること」

その後、2010年には、「ビジョン2022」を実現させるためのより具体的な目標として、「2022年に向けて」(Towards 2022:現在は、「2022年とその先に向けて」(Towards 2022 and Beyond)に拡大)が制定されました。

【2022年に向けて】

1. ワイズメンズクラブ国際協会のメンバーを最低100か国50,000名に増やす。
2. 以下により、ワイズメンズクラブ国際協会を世界的なレベルで強化する。
 - YMCAと地域社会に対して適切なサービスを提供する。
 - 私たちの社会的イメージを高める。
 - ワイズメンズクラブ国際協会およびその使命に対してのメンバーの認識を向上させる。

そして、2019年4月には「2022年とその先に向けて」で定められた目標を達成するための実施計画である「チャレンジ22」(Challenge 22)が発表されました。計画は、具体的に7つのチャレンジ(取り組み課題:ブランドイメージの強化、創設者の「遺産」の継承・発展、YMCAとの連携強化、会員を100か国、3,000クラブ、50,000名に等)を挙げ、それぞれの課題に国際本部、各区、各クラブなどがどのように対応すべきかを具体的に示しています。現在、世界中のワイズがそれぞれの地域、区、部、クラブをとりまく環境に合わせて課題に取り組んでいます。「チャレンジ22」の詳細なパワーポイントによる説明(日本語)は、以下の国際協会ウェブサイトからダウンロードできます。ぜひご覧いただき、2022年に向けてのクラブ、部、区での取り組みの指針としてください。

<https://www.ysmen.org/challenge22/>

コロナ禍によって、「2022年に向けて」、「チャレンジ22」に掲げた、クラブ数、会員数増加の目標を2022年度には達成することはできない状況ですが、次期国際会長のK・C・サムエル(インド)は、今年度から毎年、各クラブが25%の会員増強を行えば、「 $1.25 \times 1.25 \times 1.25 = 1.95$ 」で、今後3年間で会員数をほぼ倍増させることができるとし、一層の取り組み強化を訴えています。例えば、各クラブで毎年4名ひと組のチームを作り、各チームがひとりの会員を獲得すれば、25%の会員増強

が行える訳です。

また、昨年度の国際会長のジェイコブ・クリステンセン（デンマーク）は、「Week4Wast」（ゴミのための週）プロジェクトをスタートさせ、地球環境保護、美化活動を通じて、世界でのワイズメンズクラブの存在感を高めることを図り、今年度の国際会長のキム・サンチェ（韓国）は、「Heal the World」（「世界を癒そう」）を新たな統一国際プロジェクト（Unified Global Project）に選定し、災害時等の救援物資の提供/ボランティア支援、医療/健康プログラムの提供等に国際協会を挙げて取り組んで、奉仕活動を強化し、私たちのイメージアップにも繋げて行こうとしています。

国際協会設立 100 周年祝賀会は、第 1 回国際大会の丁度 100 年後の 2022 年 11 月 15-17 日に台北で開催されます。多くの方が参加され、喜びと希望に満ちた会となることを願っています。

強調月間「YIA」

ユース事業主任
相磯優子（沼津）



“YIA “(Youth Involvement and Activities) とは・・・ワイズ用語集を紐解くと、「若者のワイズメンズクラブ活動への参画・活動（直訳）ワイズメンズクラブが行う様々な行事に多くの若者たちを巻き込む活動の奨励、ワイズユースクラブの育成、ユースコンボケーションの実施等を行う」とあります。

これって、現状はなかなか難しいことです。なぜなら、「ワイズの周りにはユースはいない」（9月の常任役員会での田中監事のご発言です。（無断借用ご容赦ください））からです。

全くおっしゃる通りです。ユース（18~35歳）世代と交流をお持ちのクラブ、メンバーはいらっしゃいますが、学生 YMCA や各 YMCA リーダー、

リーダーOB/OG の方々とのご縁かと思えます。YMCA というフィルターを介して関係性を築いている現状です。

去る 8 月 7,8 日に開催されたアジア太平洋地域ユースコンボケーション（AYC）の参加者を募る際にも、コメント、YMCA リーダーには声掛けができて、その先のユース世代の若者たちに繋がる術がないことを痛感しました。私たちワイズメンの比較的交流できる距離感でいてくれる YMCA リーダーたちを支援する活動がユースボランティアリーダーズフォーラム（YVLF）です。9 月 11,12 日に 2 年ぶり開催にされました。通算 33 回目の今回は前回までのトレーニングキャンプでの研修ではなく ZOOM による形式でした。

多くのワイズメンに参加して頂けましたが、実際にキャンプに行き参加するのではなく、自宅に居ながらにして参加可能な手軽さを考えると決して多いとは言えない人数でした。

当委員会のアピール、告知不足であった事は反省点です。また ZOOM 参加ができない事情の方々が少なからずいらっしゃる事も忘れてはならない点です。次年度以降の課題です。

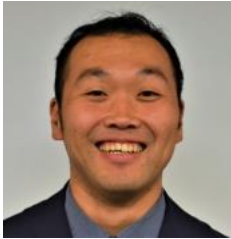
1 日目（オンラインでのアイスブレイキング）、2 日目（LGBTQ について）の講演を通して子供たちと接する際に実践できるスキルとして、また価値観、差別、配慮、多様性などの気づきや知識をもつ大切さを学んでいました。2 日間、3 回に渡るグループセッションで理想のリーダー像、未来へのアクションプランを話し合い、発表してくれました。

参観頂いたワイズの皆様には、若者たちの姿に頼もしさを感じて頂けたのではないのでしょうか。ユース事業委員会としましてはより多くのワイズメンに彼らの応援団となって参加頂けるよう事業を推進して参ります。ご理解とご協力をお願いいたします。

ユース・ボランティアリーダーズ・フォーラム

実行委員長

三田庸平（もりおか）



横浜YMCA主管で9月11日・12日の2日間Zoomで行われました。

1日目、アイスブレイキングはレクリエーションのスペシャリストの新戸信之さんを講師に行われました。簡単なゲームからレベルアップしたゲームまで様々な遊びを教えてくださいました。またグループワークとして各グループに分かれ、「理想のリーダー像」「なぜリーダーを始めたのか」などを話し合いました。その後、横浜リーダータイムとしてカウンセラーを中心に考えたWAの振り付けを行いました。最後にワイズの時間として「大久保理事のお話」などが行われました。

2日目、聖日礼拝から始まりました。ワークでは各YMCAにわかれ、それぞれのYMCA紹介を作成し、発表を行いました。色々な発見など自分にはないものを見て感じれとれたと思います。昼食後は、平良愛香さんを講師に基調講演を行いました。男性同性愛者をカミングアウトし、日本基督教団川和教会主任牧師を務めておられます。ふだん聞くことのできない貴重なお話を頂き、「今、リーダーとして求められていること」にあわせて話を頂きました。基調講演で感じたことをグループに分かれ話し合いを行い、発表を行いました。

2日間通して、様々な事を感じ大きく成長できた時間になったと思います。Zoomという環境ではありましたが、成功だったと思います。多くの皆さんに助けられました、本当に感謝いたします。参加して頂いたワイズの皆さんにもミュートという環境を理解して頂いたことに感謝いたします。



部長パワーアップ・ワークショップ開催案内

LT 委員会委員長

山下 真（十勝）



そもそもこのワークショップって何？

例年、開催をされていた次期部長・事業主任研修会に代わるものです。

事業主任の研修は別に行い、今回は部長にターゲットを絞って開催します。なぜ現部長、直前部長まで、出席を求めるのか？従来行われていた次期部長・主任研修会は、半年以上先の就任に備えることをタテマエに、次期理事の意向を受けてLT委員会がプログラムを企画していました。次期理事の方針、ワイズ運動の現況、啓発講演、部長・主任の心構え、諸手続き確認と懇親会でした。一昨年のワールドカフェ導入で次期部長同士が同期として知り合い、疑問や提案を共有する場となり、好評でした。昨秋はコロナ禍という制約はあったものの、オン・ライン（ZOOM）で小グループの意見交換ができました。さて、この度次期部長・主任研修会を検証する中でいくつか課題が浮き彫りになってきました。

（1）そもそも職種も守備範囲も異なる次期部長と次期主任とが限られた時間内で半年先の就任に向けて合同研修する意味があるだろうか。

（2）そもそも部長職について各部・各クラブはどれだけ理解しているだろうか。「部長ありき」になっていないか。

（3）部のチームや直前・現・次期のトロイカ体制は機能しているか。

（4）就任数ヶ月でまだ模索中の現部長にとって、次期部長研修を一年前に実施したことはどれだけ役立っているか。

（5）トロイカ体制を実践するのであれば、直前部長が現部長を下支えし、そばで次期部長が学び補佐するような体制が考えられないか。

（6）部によって部長職に温度差がある現状で最

大公約数的な研修はタテマエで終わらないか。

(7) 個々の部が既に抱えている諸課題に加えて、コロナ禍中での部はどう活動するか、という新しい課題が部に課せられているわけです。

このような現状に鑑み、今回はワークショップ形式で、苦しみ模索する現部長、一年間悩み抜いた直前部長、そして白紙状態の次期部長たちがパソコン画面上に会して議論し、ヒントを分かち、交流してもらいたいと思います。かつての部長たちは似た問題を抱えていながら、部を越えてホンネで語りにくかった経験をお持ちです。そのことを教訓に、区の仕事に追われるというマイナスのイメージでなく、部長職を楽しむ、というプラスのイメージを探り出し、ワイズ運動活性化に資する場にしましょう。

そのために直前部長、現部長、次期部長に参加をお願いしています。

ワールドカフェ後に、それぞれの気づきを持ち寄りながら、今後の部活動について意見を交わす時間を設けています。

なぜ、ワールドカフェを行うのか？

部内だけの論議では、もしかしたらこの状況は打破できないかもしれません。

お互いの状況や悩み、工夫を交流することで、自分の気が付いていない可能性を発見できるかもしれません。

ワールドカフェはリラックスした雰囲気の中で、小さなグループでのテーブルトークをメンバーを変えて行うことで、自分の中の気づきを得る自己啓発プログラムです。

その気づきが必ず今後の皆さんの活動に力を与えると信じています。

それぞれの気づきを各部に分かれて更に深め、各部からの報告を通じて、それぞれの可能性を確かなものとしていきましょう。

東日本区からのお知らせ

ハンドブック・ロースター配布

9月28日に各クラブ会長宛にPDFにて配信いたしました。印刷での希望は衣笠書記までお問い合わせください。

10月の主な予定

- 2日 関東東部部大会 (Zoom)
- 16日 あずさ部部大会 (Zoom)
- 23日 湘南・沖縄部部大会
(湘南とつかYMCA+Zoom)
- 30日 部長パワーアップ・ワークショップ

2021-2022年度 JEF 献金

- 利根川恵子さん 川越 50,000
アジア太平洋地域書記、東日本区会計を何とかやり終えたことに感謝して
- 小林 隆さん 沼津 10,000
子供の自宅新築の地鎮祭が無事終了して神様に感謝

2021-2022年度 新規入会者

2021/9/6

東新部 東京町田コスモス 田畑智子さん

2021/9/21

あずさ部 甲府21 平沢雅人さん

YMCA 報告

日本 YMCA 同盟協力主事/担当主事
光永尚生(三島)



1 YMCA とワイズメンズクラブパートナーシップ委員会 タスク経過報告

YMCA とワイズメンズクラブパートナーシップ委員会

では、「YMCA ユースアクション(仮称)」という働きを検討しています。そのために、タスクチームを立ち上げて、現在、YMCA で進められている、「YMCA ユースチャレンジ」を発展的に統合できないかなど、運動の広がりも模索しているところです。この働きは、ユースの皆さんが、自らの創造的なアイデアを構築し、発信していくことを支えていくための仕組み作りです。

社会課題に対して、ユース世代の感性を重要視しつつも、ミドルやシニアが、金銭的な支援に加え、違う世代も巻き込み、社会運動にまで発展できないかなど、チャレンジしていくための取り組みの一つです。ワイズメンズクラブの活動の柱の一つである、「Yサ・ユース事業」「地域奉仕・環境事業」「地域奉仕・YMCA サービス事業」「ユース事業」など、様々な形で、発展的に統合したり、新たな分野を考えたりする自由な発想から、新しいYMCAとワイズメンズクラブの協働=パートナーシップの地平が表れてくることを期待されています。

2 全国 YMCA 状況報告

①キャンプ 100 ストーリーVol 54 を 8 月末に公開いたしました。

京都 YMCA からの寄稿で現在、滋賀 YMCA の総主事である久保田展史さんからです。久保田さんが経験してこられた特徴的なキャンプを将来のヒントになるのではとストーリーに残していただきました。是非、ご一読ください。

=====

Vol.054 久保田展史さん

滋賀 YMCA 総主事

元京都 YMCA 主事

(2021 年 8 月現在)

生命との出会い、自ら挑戦すること

<https://www.ymcajapan.org/campaign/camp100th/>

=====

6 年に渡り掲載してまいりましたキャンプ 100 ストーリーですがキャンペーンも終了し、今回の公開が最後となります。

②8/16~17 の 2 日間に渡って開催した第 45 回全国 YMCA 少年少女水泳大会が終わりました。(122 名+引率者)コロナのために日帰りに変更し開催となったことに、各 YMCA のスタッフの皆さん、選手、また保護者の皆様もご協力してくださり心より御礼申し上げます

参加 東京、奈良、京都、神戸、大阪の YMCA。どこの YMCA も実力者がいて、表彰台に登る、メンバー同士と一緒に泳ぐ、そしてとても楽しそうに話をしているのを見て、全国大会の開催の価値を見た気がしました。

今回、担当者が頑張り、50m の長水路で、競泳国際公認のコース、最大収容人数 1 万人、ラクタブドームでオリンピックのような会場を確保することができました。

大会運営では、電光掲示板にカタカナで表示された名前が漢字に置き換わり、各レース終了後、2 分程度で今泳いだ選手の、名前、タイム、順位などが印刷された表彰状がすぐにプリントアウトされ、種目ごとで行う表彰式がスムーズでした。

最後に、東京 YMCA から 11 年連続参加の 2 名を特別表彰しました。

③全国 YMCA の全国大会

・全国 YMCA バスケットボール大会 (8 月 16 日 ~ 18 日 / 会場三重 / 参加 YMCA、神戸、京都、大阪、参加者・引率者合計 186 名)

→中止。出場 YMCA 全員が宿泊をして参加することになっており、宿泊や入浴、食事を含む生活での感染リスクを考慮しました。